

米軍機隊落 戦争実態迫る

市民団体「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」は、太平洋戦争の終戦直前、現在の天草市楠浦町(当時・楠浦村舟津)の海岸沖に墜落した米軍機と、天草市での戦争被害の実態について調査している。

大平俊勝さん(左)と米軍機の墜落した位置を確認する、くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークの高谷和生代表
=天草市



市民団体 天草市楠浦町で調査

証言掘り起こし 後世へ

米軍機は1945年8月14日に墜落し、パイロットは死亡。当時、付近には木造船を造る大規模な「熊本造船所」があり、同ネットワークの高谷和生代表(67)「玉名市」は「米軍による天草への攻撃は、熊本造船所や(同市佐伊津町にあった)天草海軍航空隊に特化して狙ったものとみている」という。

今年1月から本格的に調査を始め、これまで地元住民に聞き取りを実施。「造船所への機銃掃射は4回ほどあった」「墜落機は天草海軍航空隊からの高射砲に撃たれ、墜落したのではないか」などの証言が得られたという。

造船所への機銃掃射で工

員2人が犠牲になったことが判明。当時、造船所には天草内外から工員が集まっており、戦後、地元住民が、亡くなった2人の氏名や死亡日を調べようとしたが、分からなかったという。現在も身元は不明で、今後も情報を集める。

4月29日、高谷代表らは同市楠浦町の造船所跡地などを訪問。米軍機が墜落した当時の様子を知る、近くの大平俊勝さん(80)らと、墜落現場や造船所の位置を確認した。

高谷代表は「楠浦での米軍機の墜落は、今まであまり知られていなかった。戦後80年が近づく中、当時を知る人がいなくなってしまう前に証言を掘り起こし、記録していかなければならない」と訴える。同ネットワーク ☎090(1513)55288。

(清水咲彩)